

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500053		
法人名	特定非営利活動法人 いこい		
事業所名	グループホーム いこい		
所在地	岐阜県中津川市瀬戸536-2		
自己評価作成日	平成29年1月10日	評価結果市町村受理日	平成29年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kami=trus&livvosvoCd=2191500053-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成29年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、認知症高齢者の家族が集ってつくりあげたNPO法人が運営しています。ご利用者様に対しては、ご利用者様が心理的にも社会的にも当地での普通の暮らしを送っていただけるような環境を作って支援できるよう努力しています。認知症の方特有の不安感を少しでも和らげ、にこやかで穏やかな暮らしを送っていただくために積極的に散歩や買い物等の外出の機会を設けたりしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域住民の強い要望から設立されたグループホームである。1ユニット増設工事もほぼ完了し、相互の協力関係を益々深めている。訪問客には、全員が笑顔で迎え、手作りの甘酒等をふるまっている。利用者・家族アンケートでは、満足度の高さが感じられ、ホーム全体の雰囲気からも事業所の努力が伺われる。また、食材の買い出しを含めて、利用者が職員と共に、一緒に出かけられる機会を多く持っている。管理者は、職員からの意見や提案を運営に反映し、労働環境の向上に取り組みながら、24時間の訪問看護体制も整え、利用者が、いつも笑顔で安心して暮らせるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちは笑顔を育てます」という理念はやや抽象的であるものの、日々のケアの基本原則として職員みんなが共有できるよう努力している。どうしたら具体化できるか、職員会議や申し送り・研修の場で各々が考え、実践している。	理念は、玄関の見やすい場所に掲げ、職員は日々目にしながら実践している。職員会議では、理念の意義や実践状況を話し合い、共有している。利用者が住み慣れた地域の中で、生き活きと笑顔で暮らせるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として、代表者をはじめ地域の自治会活動に積極的に参加している。ご利用者様が近隣の散歩に出かけたり、祭礼に参加した際にも地域の方から気軽に声を掛けていただいている。	事業所は、自治会員として、地域の定例会や祭礼など様々な行事に参加している。そば打ち大会や五平餅作りを地域住民と行なったり、近隣住民からの野菜の差し入れなど、日常的なつきあいがある。また、ボランティアの受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援方法について学び実践していることを、地域の方との会話の中で話したり、施設の見学をしていただいている。今後は相談を受けさせていただくこと等で地域に貢献してゆきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご利用者様の様子やサービスの実践について報告や話し合いを行っている。毎回活発なご意見を頂き、特に防災分野では早速取り入れさせていただいてサービス向上に活用させていただいている。	隔月の運営推進会議では、利用者・家族・行政・区長・民生委員・老人会の参加がある。事業所の運営や利用者状況を報告し、意見を交わしている。増設工事や防災、地域との交流促進などについても話し合い、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や市の主催するケアマネ部会・グループホーム部会等で情報や意見交換、助言を頂いて協力関係を築けるよう努めている。また、介護相談員を受け入れている。	市主催のグループホーム部会や交流会に参加し、担当者からの助言を受けたり、他職種との情報交換をしている。介護相談員からの意見をサービスに活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は解放し、職員の見守りで対応している。ベッド柵や車椅子なども含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ご利用者にはできるだけ自由に過ごしていただくよう、物理的な身体拘束のみならず、心理的な拘束についても注意を怠らない様指導している。	身体拘束をしないケアに取り組み、転倒予防の介助バーなどの補助器具は、安全に配慮しながら使用している。玄関は自由に開閉でき、チャイムで察知している。外に出ようとする人には、一緒に散歩したり、自尊心を損ねないよう対応し、自由な行動を見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	大多数の職員が外部研修にて虐待防止等について学び、虐待防止の見守り役として注意深く努めている。		

岐阜県 グループホームいこい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して、特に成年後見制度について学ぶ機会を持って、日常的に活用できるよう努めてゆきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約または規則等改定の際には、ご利用者・ご家族に文書や口頭でお知らせするとともに十分な説明を行ってご理解・納得を頂けるよう努めている。また疑問点等の問い合わせは常時受け付けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の要望などは、日常的に把握できるよう言葉や表情などに注意している。ご家族からは運営推進会議や面会、電話連絡の際に伺うように努め、運営に反映させている。	家族からの意見や要望は、運営推進会議や訪問時に確認している。ホーム便りを郵送し、利用者の近況を知らせている。部屋の温度設定や食事・服薬などについての意見があり、速やかに改善している。利用者の要望等は、介護相談員を通して聞くことができ、サービスに活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度職員会議を行い、そこで職員の意見を聴く場を作っている。現在の運営に関する取り決めはほとんど職員会議で決まったものである。代表者と管理者は必ず出席し、その場で決定できる事案については決定して反映させている。	毎月の職員会議や業務の中でも、職員の意見や要望を聴く機会を設けている。職員からは、ケアの気づきや勤務調整、休憩時間、物品の購入等、多様な意見があり、管理者は、改善に向けて速やかに職員と話し合い、より良い利用者サービスと働きやすい職場環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状態や実績、勤務状況などを管理者からも代表者に報告している。勤務・職場環境に関する相談も代表者・管理者が受け付けている。全職員平等を旨とした就業環境を整備してきたが、今後は各自のモチベーションを高めてゆけるような施策を研究してゆきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修には実務経験のある職員から受講させている。新人職員の介護初任者研修受講や、介護福祉士受験のための支援も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市グループホーム部会や研修会に参加し、交流作りに努めている。職員数が少ないが、出来る限り参加を促してサービスの質の向上を図る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の不安・要望・思いなどを聴く機会を作ろうと、職員一人ひとりが意識してご利用者に接している。その際はご利用者に安心していただけるよう努めて笑顔で接し、大声を出すことのないように指導している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、ご家族の不安は大きいと思われる。この時点でホームとご家族、ご本人とのしっかりとした関係を構築する為、話しやすい環境をつくり、不安・困っていることなどを伺って信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応として、面接時にご本人やご家族から伺った情報・診断書・利用予約票などを基にアセスメントを十分に行い、ご不安の点を少しでも少なくできるような介護サービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者さんは調理・裁縫・草取りなど得意なことをそれぞれに持ってみえるので一緒に行かないながら教えていただいている。できた作品などはリビングや居室に飾り、暮らしの中に楽しみを持てるような空間作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の思い、ご家族の思いをそれぞれに伝えて橋渡しをすることを大切にしている。ご家族には相談・報告をしながら、ともにご本人を支援できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人など馴染みの人との面会や外泊などや、美容院等なじみの場所への外出はできる限り支援している。	家族と共に一時帰宅や、馴染みの場所に出かけている。知人や親戚の面会時には、職員は気持ち良くもてなし、再訪に繋がるよう努めている。利用者は、職員と共に、見慣れた街やスーパーなどへ、買い物に出かけている。定期的に訪れるボランティアの人や、訪問看護師とも馴染みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の構成が変化するたびに、新たな関係の構築に腐心しているところである。みなさんが穏やかにゆったりと過ごしていただけるような環境調整に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も電話相談などがあれば対応している。特養ホームへのご退所者への現ご入居者の訪問希望を支援したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員各々は日々のケアを通じて一人一人の思いや意向の把握をしようと努めている。把握が困難な場合、その人本位に立って職員会議や申し送りの場で検討している。	個々の基本情報を契約時にまとめ、職員間で共有している。担当職員を中心に、利用者の思いや意向を把握している。意思疎通の困難な人はいないが、家族からも希望を聴き、本人の思いに沿った暮らし方ができるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの記録、日常会話の内容・ご家族からの情報などによって把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りや日誌、個別記録から、一日の過ごし方、心身状態、有する力などの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人には可能な限り参加してもらっている。ご家族にはケアプランの内容を説明し、ご意見・要望をうかがっている。また、職員には個人記録票に転記しているものを常に参照させて介護計画を意識したケアの実践を求めている。	介護計画は、担当職員が取りまとめた記録票や、関係者の意見を参考にしながら作成している。利用者と家族の思いや意向を反映し、本人が笑顔で元気に過ごせるような介護計画作りを行なっている。	サービス担当者会議には、利用者・家族・担当職員が、直接、顔を合わせて話される事が望ましい。また、お互いが役割を担う中で、家族と利用者との絆が、より深まるような支援がなされる事に期待をしたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は改善を重ねながらケアプランへの反映やケアへの見直しに努めている。日々のケアにおいては日誌・申し送りなどで職員間で共有できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のご本人やご家族の状況・ニーズに対応して、できる限り臨機応変に支援できるよう努めていきたい。		

岐阜県 グループホームいこい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の郵便局を利用したり、運営について近所の方のご協力を頂いている。また、地域のボランティアさんによる音楽・体操・ゲーム等のアクティビティも行われている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご本人・ご家族の意向を伺い、決定している。定期通院についてはご家族のご意向により、ご家族にお願いしたり、職員が同行したり月2回の往診をお願いしていただいたりしている。	利用者、家族は、希望するかかりつけ医を選択している。協力医の場合、月1回の往診がある。事業所と訪問看護ステーションとの契約により、週1回の訪問と24時間の連絡体制を整えている。関係機関と連携しながら、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常生活の中での気づきや情報を協力医療機関の看護師に伝えている。必要があれば受診や看護などを実施するよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、職員が付き添って情報提供し、退院時は病院の看護師からの情報を伺ってサマリーなどの情報を受けている。この際、できる限りご家族とともに情報を聞くようにしている。病院相談員とも連絡を取り関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時、重症化や終末期に向けた方針について話をしている。ターミナルケアについて等、具体的なことは指針に則って、その場になったときに改めて協力医を含めて十分な話し合いと確認をしたいと考えている。	重度化や終末期の指針を書面で説明している。訪問看護師が毎週訪問し、利用者の状態を把握している。重度化の段階ごとに関係者で話し合い、方針を共有している。看取り事例はないが、終末期ケアの体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、消防署の協力を得て、救急法・AED使用法・異物除去法などをご家族、職員、地域の方などと学ぶ機会を設けた。今後も定期的な訓練を行ってゆく方針。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難を消防署の指導により、ご家族や地域の方の参加を得て行った。今後は地震・水害対策も含めて定期的な訓練により全職員が避難法を身につけてゆくことをめざし、地域との協力体制も築いてゆきたい。	災害訓練は、避難誘導や初期消火など、地域住民の参加も得て、訓練を実施している。地域の消防団のOBとも連携し、協力関係を築いている。備蓄品の確保や、昨年課題となった、自家発電装置や貯水タンクなども設置している。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りを損ねないように注意して言葉かけなどを行っている。プライバシーに注意しながら排せつ介助や入浴介助などを行っている。	利用者の身だしなみやおしゃれ心を理解し、思いを尊重しながら気配りをしている。親しい間柄であっても、常に節度ある対応で、その人らしさや自己決定を尊重している。就寝時には、居室の施錠を行いたい利用者には、本人の思いを大切に、対応を工夫している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝のバイタルサイン測定時や、介護時などに何がしたいかを伺っている。些細なことでもいろいろな場面で自己決定できるような支援に努めている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしについていつも頭で考えながら希望を確認し、その人のペースによる暮らしを実現できるように支援できるよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択や着替えなど自分で可能な方にはしていただいている。できない方には声掛けや助言しながら、その日の気分や気候に合わせた形で支援や介助している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の一般家庭で普段提供されているメニューを提供することを旨としている。誕生日や行事、季節に合わせたメニューや好みを伺いながら利用者と職員と一緒に準備し、食事・片付けもしている。外食も活用しつつ、五平餅やおはぎ、餃子なども楽しみながら作られている。	職員が、旬の食材を使って、三食とも手作り料理を提供している。利用者も職員と一緒に、食材の買い出しに出かけたり、下ごしらえや盛り付けなどを手伝っている。食事時間は、音楽を流し、職員と利用者が、同じテーブルで同じ物を食しながら、楽しい食事時間となっている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分量は個別記録に記入している。また、栄養バランスにも留意しつつ地産地消を念頭に、楽しい食事を提供できるよう努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕と毎食後の口腔ケアは個々に声掛けをし、本人の力に応じた支援をしている。週2回歯ブラシ・コップなどの消毒を行っている。舌や口腔内の清潔保持のための支援を心がけている。	

岐阜県 グループホームいこい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に一人ずつ記録し、体調や排せつパターンを把握し、パットやおむつの使用量を減らし、排せつの自立に向けた支援ができるよう努めている。	利用者全員が、トイレでの排泄ができています。昼間は、個々に合わせて声かけやトイレ誘導し、自立を支援している。夜間のみ、ポータブルトイレを使用する人もある。また、おむつ使用で熟睡できることから、昼間の失敗が減少した人もあり、利用者一人ひとりの状態に応じて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防と対応には、原因を理解するよう努め、食事や運動など、個々に応じた対応をしている。また、機能性食品の利用による下剤の使用抑制にも取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の力や希望に応じて入浴ができるよう心掛け、安全に楽しく入浴できるよう努めている。月曜日から土曜日まで、週3回ずつ入浴されている。	入浴は週3回を基本としており、順番や湯加減など、柔軟に応じている。入浴を拒否する人には、曜日を変更したり、声のかけ方を工夫している。職員の相性にも配慮しながら、ゆったりと気持ちの良い入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は定めていない。個々にお部屋で過ごしていただき、就寝していただいている。日中の休息も体調に応じたり、その時々状況で支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や副作用については、薬局の説明書を個別記録とともにファイルしていつでも確認できるようにしている。服薬管理・介助により、確実な服薬を確認し、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活や力を生かし日々の役割の中で張り合いを感じられる支援、そして嗜好や趣味、特技などをつかみ日々取り入れることで、喜びの時間や気分転換などの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の店へ買い物外出や近所への散歩等で、日常的に外気に触れていただけようようにしている。ご利用者全員の外出の実現を目標にし、外食や紅葉狩りへ出かけている。ご本人の希望でいろいろな外出支援をご家族の協力も得ながら行っている。	事業所周辺を日々散歩している。職員と共に、食材の買い出しや、喫茶店、神社などに出かけている。季節の花見や紅葉狩り、外食、温泉にも出かけている。個別の希望には、家族の協力を得ながら、一時帰宅で墓参りや美容院に出かける人もある。	

岐阜県 グループホームいこい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は事務所にてお金の管理をしている。ご希望によって少額の現金をご自分で管理し、商店で買い物をしていただいている。また、正月に孫へのお年玉をとの希望があり、渡したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご希望によりご利用者様自らがご家族に電話されるときは支援し、安心につながっている。手紙のやり取りについても支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には玄関、リビングなどに花を活けたり、壁にリースや手芸品を飾り、季節感や家庭にいる雰囲気を作り出すよう努めている。エアコンや床暖房により住環境を整えている。また、乾燥時の湿度管理には特に気を配っている。	共用の間は天井が高く、竹林の見える窓からは、明るい光がさし込み、加湿器を備えて湿度を適切に管理している。壁には、恵那山の大画やパッチワークのタペストリーを飾り、安らぎ感がある。花を随所に飾り、畳のコーナーや大きなソファなどで、思い思いに居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のリビングではソファのお気に入りの場所に座られたり、話がしたいと思った方のところへ移動されて過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の防災カーテンはご本人の好みのものを使っている。使い慣れた鏡台や整理タンス、ご家族の写真、テレビ、位牌などを置いてみえる。施設側は特に持ち込まれるものについては制限していない。	居室窓のカーテンや寝具類は、利用者の気に入ったものを家から持参している。整理ダンスや机、椅子などを持ち込み、使いやすく配置している。家族の写真や孫からのプレゼントの品を飾り、自分らしく落ち着ける居室作りの工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室が分からなくなる方には入口にわかりやすい目印をつけて、トイレの帰りなどにも迷わず、戻っていただいている。トイレは常夜灯をともし、またトイレ入口も他と区別できるようにしている。		